みんなでつくって、みんなで盛り上がろう　創生！ふるさと祭り

安来市広瀬交流センター

1　広瀬交流センターの概要

安来市広瀬地区は、中海に注ぐ飯梨川がまちの中央を流れ、川添えには、まちの中核街や集落を形成し、中山間地の中心的な役割をしている。また、この地は、戦国尼子氏の居城月山富田城跡等､数多くの史跡を残す戦国ロマンの地であるとともに自然豊かな農林業地帯である。

当地区は、人口約 4,000 人、世帯 1,250 戸、高齢化率 31,5%、人口減少と高齢化が進んでいる。

当センターは、平成 19 年度に従来からの公民館を交流センターに改称。本来の公民館業務に地域振興と行政サービスが付加され総合的役割を担うことになった。

現代を担う役割の切替であるが、町づくりの理念である「人と自然にやさしい町づくり」を目標に、水と緑の住環境、歴史資料の活用、青少年健全育成、安全と健康等、地区住民と一体となり、元気のでる希望と魅力ある町づくりを推進する。

2　事業の概要

（1）はじめに

①実証事業名　　ふるさと祭りの開催と関連事業

②実証事業のテーマ

「みんなでつくって、みんなで盛り上がろう　創生！ふるさと祭り」

③実証事業のねらい

当地区では、平成２０年度に健康推進会議、青少年育成推進委員会、子ども見守り隊が地域住民の力により発足し、行政依存体質から一歩抜け出し、住民自治への意識が芽生えた。また、これまで課題であった学社連携についても進歩が見られた。この機運を更に高めるために地域が一体となって取り組む事業を創出し、地域住民に活気と刺激を与え、今後の地域活性化、住民自治への活動の和をより大きく強固なものとする。また、この事業を通じて、ご当地グルメの開発、世代間交流、伝統芸能の伝承・普及など、新たな町おこしの取り組みに挑む。

（2）具体的な取組

①ふるさと祭りの開催（１１月７日、８日）

ア　町内対抗のど自慢大会

各町内からそれぞれ各２組の代表選手（計１８組）が出場し歌合戦を行った。

交流センター館長、自治会長等を審査員とし成績優秀な町内と個人を表彰した。会場内は各町内からの出演者を応援するため多くの住民で溢れ、かつてないほどの賑わいとなった。

イ　地元団体・商店による出店

従来行われてきた商工会青年部主幹による催しとタイアップし地元の団体及び商店による出店を実施した。

ウ　芸能大会

地元の子どもたちや団体による鼓、ダンス、大正琴、広瀬音頭等の芸能や音楽の発表を行った。また、広瀬中学校吹奏楽部のコンサートを開催した。

②ご当地グルメの創作

地元の酒蔵の酒粕と地元産の野菜を使用した粕汁作りに取り組んだ。

③伝統芸能の伝承と普及

小学生で構成するグループわくわくクラブを中心に小学生を対象とし、夏は婦人会・商工会青年部を講師として盆踊りほか地区に伝わる踊り、冬は町内の鼓と笛の熟練者を講師として鼓と笛の講習会を複数回に亘り実施。レクリエーションや料理教室等を盛り込むことにより多くの参加者を得た。また、地区の盆踊り大会や各町内の叩き手が競演する正月鼓揃い打ちにも積極的に参加した。

3　事業の成果と課題

（1）ふるさと祭りは当センターを始めとする地域活動に大きな影響を与えた。特に、以下の３点を挙げる。

①若い世代の地域活動への参画

ふるさと祭りを商工会青年部と共同開催したことにより、若い世代が交流センターの活動・機能への関心を深めることにつながった。ふるさと祭り開催後も当センターの事業・活動への積極的な参加がみられるようになった。また、地域活性化に向けた意見交換も活発に行われるようになった。以上のことから従来課題であった若い世代の地域活動への参加と交流が大きく前進した。

②大きな反響

ふるさと祭りは主催者の想像をはるかに超える盛り上がりを見せ、終了後、主催者及びボランティアスタッフは大きな感動と次なるステップへの活力を得た。また、住民からは感謝の声とふるさと祭りの次年度以降の継続を望む声が多く寄せられた。

③交流センターへの関心度・期待度アップ

ここ数年、当センターは新規事業の立ち上げ及び従来からの事業の見直しを積極的に行い、以前と比較して住民の交流センターの利用者、活動への参加者は増加の傾向にあったが、ふるさと祭りを契機に更に関心度・期待度がアップした。そのことを実感する現象として住民・団体からの様々な相談や当センター活動への意見・問合せの急増が挙げられる。

（2）ご当地グルメの創作は未だ手探りの状況である。元々、地域の特産食材、郷土料理と言われる物が無く、ほぼ白紙の状態からのスタートとなっている。また、農林業や地元商店等との協力体制の構築も必要と考える。

（3）伝統芸能の伝承と普及は、技能の習得はもとより、講師である地元の大人、高齢者との世代間交流の場として絶好の機会となった。また、講習会に盛り込むレ

クリエーションの企画から運営までを子どもたちが自主的に行う等青少年育成にも成果を挙げた。

全体的な課題として、それぞれの事業に対する企画立案から住民を巻き込む仕掛けが不十分である。多くの人が意見・アイディアを出し合い、役割分担をできる組織作りが必要である。

4　今後の方向性

以前と比較し、交流センターを始めとする地域活動への住民参加は増加傾向にあるが、課題面でも述べたように今後は企画立案からより多くの住民が参画する組織作りをしていかなければならない。また、これまで地区住民に対しての取組みを行ってきたが、この「地域力」醸成プログラムにおいて培ったこと及び地域の財産である歴史を観光客の誘致やＩ・Ｕターンによる定住対策に活かし、将来の我が広瀬地区を明るく魅力ある元気なまちとしたい。